

昨年引き続き藍の生葉染めをしました

＜7月にこんなことをしました＞

●二回四日



藍の葉



杉浦絹代さん



藍の葉をハサミで切る



絹の布は水に



布を液の中でもむ



参加者の皆様



樹液を出するための作業



ガーゼの中の藍の葉をもむ

した。それまでは見過ごしていたのですね。

てきます。人間も自然の一部。コロナ禍の時、私はまるごと館に人が



昨年と同じく

4日 杉浦絹代さんは既に20年以上ご自宅で育てておられる藍の葉を持ってきて下さって生葉染めができました。若い葉がよく染まるそうで、どうしても6月から9月までの作業になります。昨年はミキサーで藍の葉を潰されましたが、今回はハサミで小さく切つての手作業で行いました。絹の布も持ってきて下さいました。

＜染めの順序＞

① 初めは絹の布に割り箸や輪ゴムや洗濯ばさみを使って染まらない部分を作り、水に浸

- します。
- ② 藍の葉をハサミで細かく切ります。それを用意して下さったガーゼの袋に入れて水の中で揉みます。ドロツとした緑色になったらガーゼを絞り取り出します。
 - ③ そこに絹の布を入れて揉みます。泡がある内は染まります。20分から30分くらい
 - ④ 液から取り出し絞ります。水で洗います。水の色がなくなるまで。緑色だった絹の布は外に出すと酸化して綺麗な青に。
 - ⑤ 天日に干します。外で乾かしました。

(右ページ写真)

参加者の方々がこの染めを経験できたのは杉浦さんが育ててられた藍のおかげです。昨年は藍が育つ頃になると藍染めの新聞記事が目にとまり

自然の持つちから

こんな言葉にであいました。「時には大きく深呼吸をして心からっぽにすることが大事。大自然が生きる力を与え続けている感覚を取り戻そう」って。(自分の花を精いっぱい咲かせる生き方 鈴木秀子より)

負の感情の出所は全部自分自身で、それで自分をがんじがらめにしてしまいます。

自分自身を思いっきり手放してからっぽにしたら、青空が目、小鳥のさえずりが耳に入



染めた後日に干す

オカリナひまわり



7日 また演奏会のお誘いが入りました。聞いて下さる皆様に声を出してい

い気持ちで歌っていただけるように、若い頃に歌われた曲だったらいいなあと思いながら選曲しました。母さんの歌や里の秋、北上夜曲、瀬戸の花嫁等々です。夏の間はいつもお休みしてお盆明けからひまわりメンバー19人皆でオカリナの練習を始めます。

八幡まるごと館だより

2025年8月12日/189号

＜発行＞八幡まるごと館/八幡市男山松里12-20
(TEL&FAX) 075-983-3664(9時~17時)

(E-MAIL) yawata@marugotokan.net

ホームページは <http://marugotokan.net/>

又は、八幡まるごと館で検索して下さい



八幡まるごと館は街行く人のだれもが自由に立ち寄れる“地域サロン”です。休館日は毎週火曜日全日と土・日午後です。

絵手紙講習会



9日 この日は参加者がいつもより少なく6人でした。暑さが関係しています。寂しいですね。ひまわりやトマト、万願寺とうがらし等の花野菜を目の前にして描きました。前回

も書きましたが、森本さんがおられたら絵画展のためという張り合いが持てましたが、でも、まるごと館に初めて入られた方が壁面の絵手紙展示を見られ、素敵ですねと。嬉しいです。

八幡の歴史



23日 出口修さんは「八幡における部落差別」について話して下さいました。江戸時代封建制を維持するための分断政策でした。土農工商の下に被差別部落民を配置して農民の不満をやわらげる働きを画策しました。見た目で見られるように髪の毛や服装を制限し、

されましたし、人が嫌がる仕事死牛馬の処理、皮革業、刑場の番人、刑吏の下働き等決められていました。明治4年には解放令が出されたけれど、1975年には部落地名総鑑が売られ多くの企業が買っていて就職・結婚差別がまかり通っていました。今も分断が飲み込まれないように

雨の日でも傘をさせないし、冬でも膝より長い着物は着ては駄目だとかおかしなことばかり強要

理解の実験



18日 この所大人気のオニヤンマを作りました。木下章司さんは下準備も含めて沢山オニヤンマの部品を用意して下さいました。その体は檜の割り箸に黄色いマーカーで全面塗って下さっていて、私たちは油性の黒ペンで等間隔に塗るのみでした。オニヤンマは自然界では昆虫類やクモ類をとって食べるのだそうです。そこからオニヤンマを実際に似せて作れば虫は逃げ去っていくのではないかといいことなんですね。実際の所は



不明ですが、皆さん喜んで作られました。宮地さんもいつもありがとうございます。子どもさんの参加もあり、彼らも嬉しかったと後で聞きました。



八幡まるごと館 8月・9月の予定 休館 8月11日(月)~8月16日(土) 9月17日(水)

<パソコン教室>	
8月18日(月)10時~12時	パソコンを持って来て下さい。費用200円(コーヒーつき) 毎週月曜日10時~12時です。
オカリ+クラブ ひまわり 楽しめる時こ。参加費100円	
8月18日(月)13時30分~	毎週月曜日、祝日はお休みです
<歴史を学ぶ 新八幡の歴史 N070>	
8月28日(木)13時30分~	講師出口修さん 参加費100円 月1回で
<絵手紙講習会> 描く材料があれば持って来て下さい。	
9月9日(水)午後1時30分~	森本玲子さん 200円(コーヒー付き)
<楽しい理科の実験 N063> 温かいカイロ冷たいカイロ 持ち物は後日連絡します	
9月19日(金)13時30分~	講師 木下章司さん 参加費300円(コーヒーつき)
<映画上映会> 再上映「学校II」 1996年 122分 山田洋次監督	
10月1日(水)13時	参加費100円 出演者 西田敏行



パソコン教室



映画上映会



30日 山田洋次監督の「学校II」を見ました。40℃にもなると言う日でも三人も来て下さいました。養護学校が舞台上、「学校1」に続き西田敏行が先生で目の前の子どもたちと関わっていく様子や自分のことが言えないからって教員らしい仕事が出来ないと悩む新卒の教員へのアドバイス、又大雪原での二人生徒の動きは北海道ならではの見所がありました。

あんなことこんなこと *
*「黒川の女たち」という映画を見ました。日本は1931年の満州事変に端を発し、1932年中国東北部に「満州国」をつくりました。そこに住んでいる現地の方々の家等を安く買いとり(奪いとり)、日本人が約27万人渡ったといわれています。映画には日本から開拓団として渡った岐阜県黒川の方々のことが描かれていました。1945年日本関東軍が劣勢になり軍は人々に事実を知らせずに南下。ソ連軍が攻めてくる中、他の開拓団中では皆で自決した所もあると聞き、黒川ではソ連軍に助けを求め、数えて18歳以上の娘15人を性接待に。引き上げてからも彼女たちにとっては生きづらく、離れざるを得なかった方もいる。証言をされた方々の話を聞きながら、彼女たち

の80年に思いを馳せました。知らない知られないことが余りにも多く、情けなくたまらなかつたです。遺族会の取り組みが良かったです。
藍染めができる仕組み (ネットより) 葉を粉砕することで無色透明のインジカン(水溶性)が溶け出る。さらに生葉中の酵素が溶けだしインドキシル(水溶性)に。インドキシルが繊維内部に侵入し、酸化されて青色のインジゴ(不水溶性)に変化する。

「乙女の命と 引き替えに 団の自決を 止める為 若き娘の 人柱 捧げて守る 開拓団」

黒川の女たち 冊子から

藍の葉っぱを木綿の上に置き、木槌でとんとたたくと右のように藍の紺が鮮やかにでてきます。来年はこれをやってみようかという話がありました。是非とも。大雨の被害がでて悲しい気持ちに。(うえたにじゅんこ)

